

第3回 みんなの地域医療ひろば アンケート結果

□ 開催概要

開催日：令和8年8月23日（日） 14：00～15：30

参加者数：24名

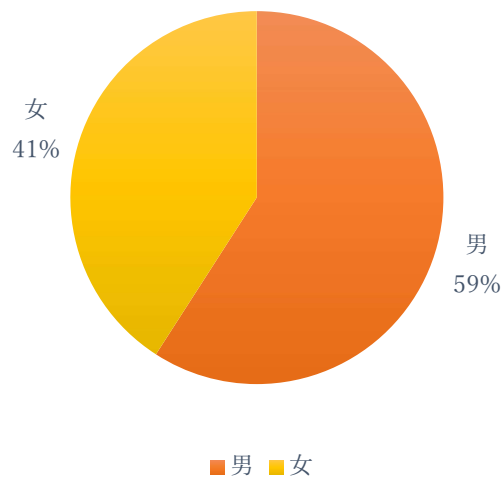
回答率：92%

□ アンケート集計結果

■ 問1. あなた自身のことについて

1. 性別

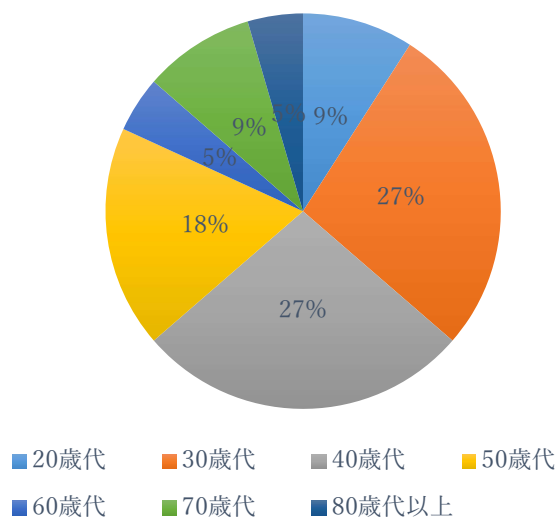
参加者男女比



参加者の内訳は男性13名、女性9名。全体の60%が男性であった。

2. 年齢

参加者年齢構成



参加者の年齢内訳については 40、30 歳代が最も多く 6 名ずつ（27%）、次いで 50 歳代の 4 名（18%）であった。

■グループワークを通じて、学びになったことや気づきを教えてください。

【グループ1】

- ・市の面積の割に医療機関が少ない
- ・高齢者がアクセスしにくい
- ・病院について知らなかったことが分かってよかった
- ・マッピング面白かった
- ・病院、クリニックが集中している、散っているに関わらず、アクセスが難しいエリアが存在する
- ・筑西市内の病院を MAP で可視化することで、筑西市の医療の特徴や課題が分かったような気がする
- ・実際、目で見てみて理解することが大切だと感じた
- ・多くの方の意見を知ることができ、知見となった
- ・地域によって医療機関の集中、過疎の差があるということを改めて確認できた
- ・自身の事業所で何ができるのかを検討できる時間となった

【グループ2】

- ・情報量の多さに驚いた
- ・この情報以外と知らない方がいらっしゃるという発言があった点
- ・まだまだやるべきことがあるなと感じた部分があった
- ・たくさんのパンフレット等があるとは思ってもみなかった
- ・パンフレット等は初めて見るものばかりだった
- ・パンフレット等の情報がネットで見られるようになると嬉しい
- ・市に何かをやってもらえるかではなく、自分達がどうしていくと情報をもっと取っていけるかの視点をもっと持てるのではないかと感じた
- ・同じような情報の発信の仕方でも、関連あるものが違うかで認知度が違う
- ・医療に関する情報がたくさんあることがわかった
- ・必要とする方に情報を届けられるように、今後も工夫していきたい
- ・市民は自分事にならないと調べないし、知らない
- ・調べたときにすぐに情報を取れるような体制づくりが必要だと感じた
- ・発信している情報が非常に多くあり、当事者が情報を取捨するのは困難だと感じた
- ・その人に必要な情報を選択するため“相談者”をどのように付けられるのかと課題を感じた
- ・受け手の全年代に係る情報は比較的知られていることが分かった
- ・自分事をならないと情報を取りに行けないという情報がよく分かった
- ・どんな時に必要になるのか、自分も必要になるかもしれないという意識を一人ひとりが持てるようになるには、どうすべきかを考えていきたい